

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 144-0041
 住 所 東京都大田区羽田空港3-2-8
 氏 名 株式会社ANAケータリングサービス
 代表取締役 川崎 三喜男

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社ANAケータリングサービス		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区殿町3-26-1 ANA川崎ケータリング棟		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	機内食製造、航空機への搭降載、機内用品の洗浄・管理業務		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,899	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
		電話番号	
		FAX番号	
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成30年度 ～ 令和2年度 (報告年度 令和2年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	当社の環境負荷低減の取組については、下記URLに掲載 https://www.google.com/url?q=https://www.anac.co.jp/guide/index.html&sa=D&source=hangouts&ust=1595051957332000&usg=AFQjCNHKna-gwI--CXrkCcQ1q5q1d3kPWg

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況 (排出係数固定)

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 5,355 (調) 5,280 t-CO ₂	(実) 5,564 (調) 5,487 t-CO ₂	(実) 5,564 (調) 5,487 t-CO ₂	(実) 3,578 (調) 3,521 t-CO ₂	(実) 6,265 t-CO ₂
削減率		(実) -3.9 % (調) -3.9 %	(実) -3.9 % (調) -3.9 %	(実) 33.2 % (調) 33.3 %	(実) -17.0 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	生産量		単位	t-CO ₂ /千食	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.9867	0.9846	1.025	4.739	0.8488
削減率		0.2 %	-3.9 %	-380.3 %	14.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	生産量の増加、増便等により工場全体の稼働が上がってきている中で、2018年度は大きな省エネ効果を生む取組ができなかった。生産食数では前年比104%増加に対してのエネルギー使用量も比例して増加しており、CO ₂ の排出量は前年比102%となっているため、実排出量は3.9%増加し、原単位は基準年度比で0.2%減少となった。
第2年度	2019年度は一般照明を中心に照明のLED化を一部であるが進めてきた一方で、夏場・冬場にて空調負荷の影響を受け、生産食数では前年比96%に対してCO ₂ 排出量原単位は102%と増加している。実排出量は3.9%増加となっており、原単位は基準年度比で3.9%増加となった。
第3年度	2020年度は原単位の算出に関わる生産食数がコロナ禍での影響を大きく受け前年比13.9%となっており、原単位も基準年度比で380.3%と悪化している。ただし、エネルギー使用量においては、生産減や省エネ活動によるエネルギーを使用する機器類のデフォルトを見直し原油換算klで前年比62.9%、CO ₂ 排出量は前年比で63.4%、基準年度比で66.8%と大幅に減少している。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標)

2017年度比で14%(原単位ベース)を削減する目標に対し、生産減より大幅な悪化となった。ただし、エネルギー使用量でいえば、前年比62.9%と大きく減少となっている。

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、 第2号、 第4号該当者等)	計 画	<p>○現在構築されている環境マネジメントシステム (ISO14001) の中で設定している目標値に従い、エネルギー管理を行う。</p> <p>○主要設備について作成している管理標準を必要に応じ見直すとともに、これに基づく運転・保守管理を徹底する。</p> <p>○設備毎のエネルギー使用量を月次で取り纏め、社内で情報を共有して分析し、節約に繋げる。</p> <p>○LED照明導入の検討。</p>
	第1年度	<p>○現在構築されている環境マネジメントシステム (ISO14001) の中で設定している目標値に従い、エネルギー管理を行った。</p> <p>○主要設備について作成している管理標準を必要に応じ見直し、これに基づく運転・保守管理を徹底した。</p> <p>○設備毎のエネルギー使用量を月次で取り纏め、社内で情報を共有して分析し、節約に繋げた。</p> <p>○LED照明導入については、管球のみの交換で対応できる商品でトライアルを実施したが、諸事情により見送った。引き続き検討していく。</p>
	第2年度	<p>○現在構築されている環境マネジメントシステム (ISO14001) の中で設定している目標値に従い、エネルギー管理を行った。</p> <p>○主要設備について作成している管理標準を必要に応じ見直し、これに基づく運転・保守管理を徹底した。</p> <p>○設備毎のエネルギー使用量を月次で取り纏め、社内で情報を共有して分析し、節約に繋げた。</p> <p>○LED照明導入については、工場の一部作業エリア、新共用エリアに対して導入を行った。</p>
	第3年度	<p>現在構築されている環境マネジメントシステム (ISO14001) の中で設定している目標値に従い、エネルギー管理を行った。</p> <p>○主要設備について作成している管理標準を見直し、これに基づく保守管理の在り方を確認し、点検の内容等を見直した。</p> <p>○設備毎のエネルギー使用量を月次で取り纏め、社内で情報を共有して分析し、生産機器類のデフォルトを見直し、エネルギー削減に繋げた。</p> <p>○LED照明導入については、未実施個所の工場内エリアに対して、今後の導入に向けて調査を行った。</p>
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	○社内で構築している環境マネジメントシステム(ISO14001認証)に基づき、環境負荷低減を目指す活動を継続。
第1年度	ISO活動における目標は、『エネルギー使用に係る原単位を0.1%→1%以上改善する』として、活動を継続している。
第2年度	ISO活動における目標は、『エネルギー使用に係る原単位を0.1%→1%以上改善する』としているが、昨年度については、新型コロナウイルスの影響を受け生産食数が減少したことで、達成できなかった。今後の生産食数の伸びは見込めないものの、エネルギー使用量を抑えることで、達成を目指す。
第3年度	エネルギーを多く使用する空調や生産機器類の初期設定(デフォルト)の見直しを行い、使い方の中で過剰なエネルギーの使用に繋がっていないか点検し、電力、蒸気、冷水を中心に削減へ取組んだ。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	3,459	t-CO ₂
(調)	3,391	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	川崎市川崎区殿町3-26-1 ANA川崎ケータリング棟	0997	すし・弁当・調理パン製造業	3,459 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--